

公共ライドシェア実証事業について

2026. 7.22 住民課

1

那賀町の地域公共交通の現状

那賀町の公共交通網について

令和8年4月1日時点の町内路線図



那賀町にある様々な移動手段

路線バス



バス事業者は**町内1社**(徳島バス南部)。運転手は常勤9名、非常勤4名(うち**60歳以上が7名**)。現在、必要要員は満たしているが、**将来的な維持に課題感**がある。

公共ライドシェア

<交通空白地>

<福祉>



町や社会福祉協議会が、自家用車で提供する有償の旅客運送サービス(町営バスやボランティアタクシー)。**60歳以上のドライバーがほとんどで、ギリギリの状態**

タクシー



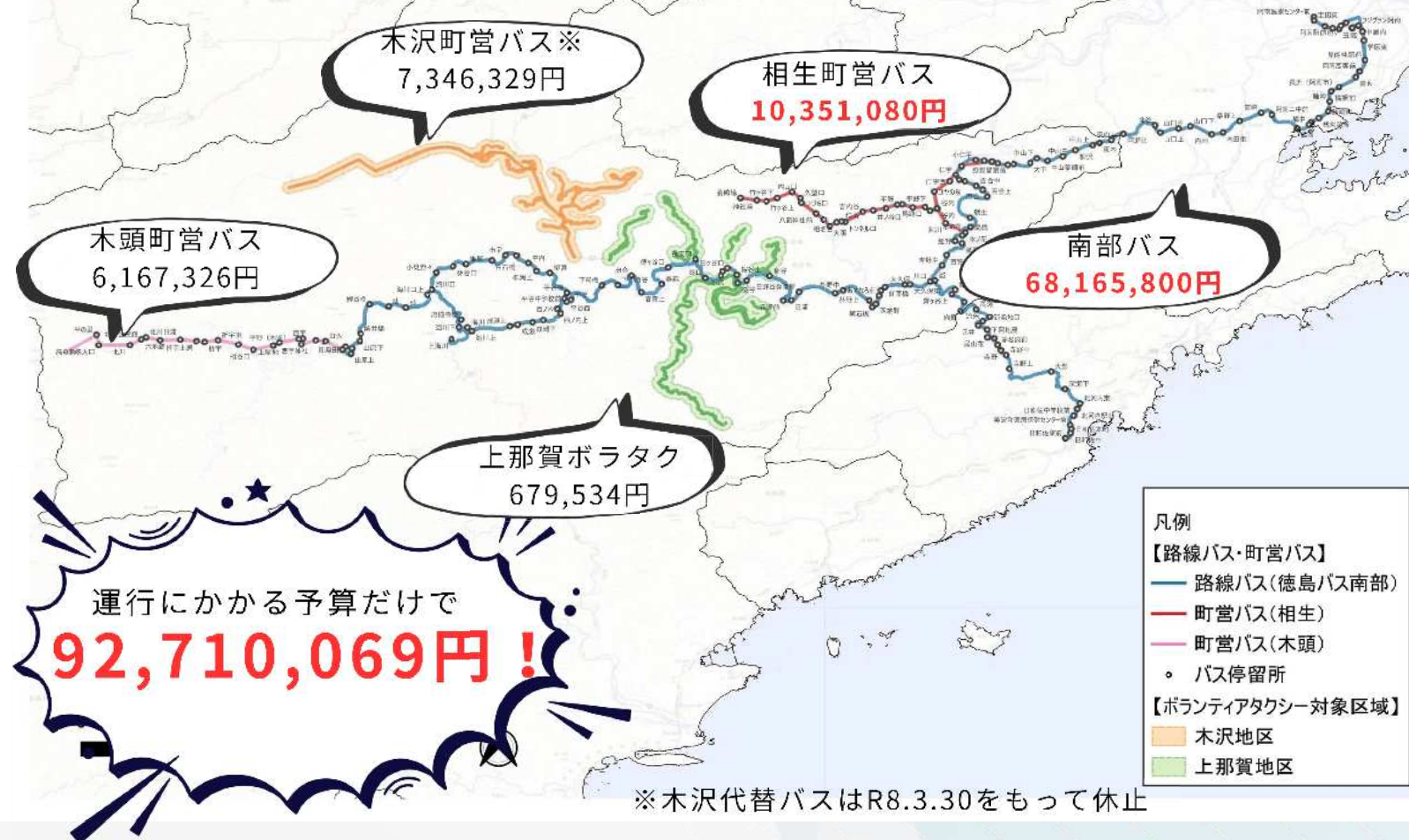
タクシー事業者は**町内3社**。いずれも**75歳以上で代表＝運転手後継者が現状いない**ため、**事業継続が難しい**との声が上がるところも...

おたすけ隊



ボランティアにより、**運送の対価を受け取らない無償**での輸送サービスで、**道路運送法の規制を受けない**
※ガソリン代等の実費を受け取ることは問題ありません

交通にかかる予算額は？（R7実績より）

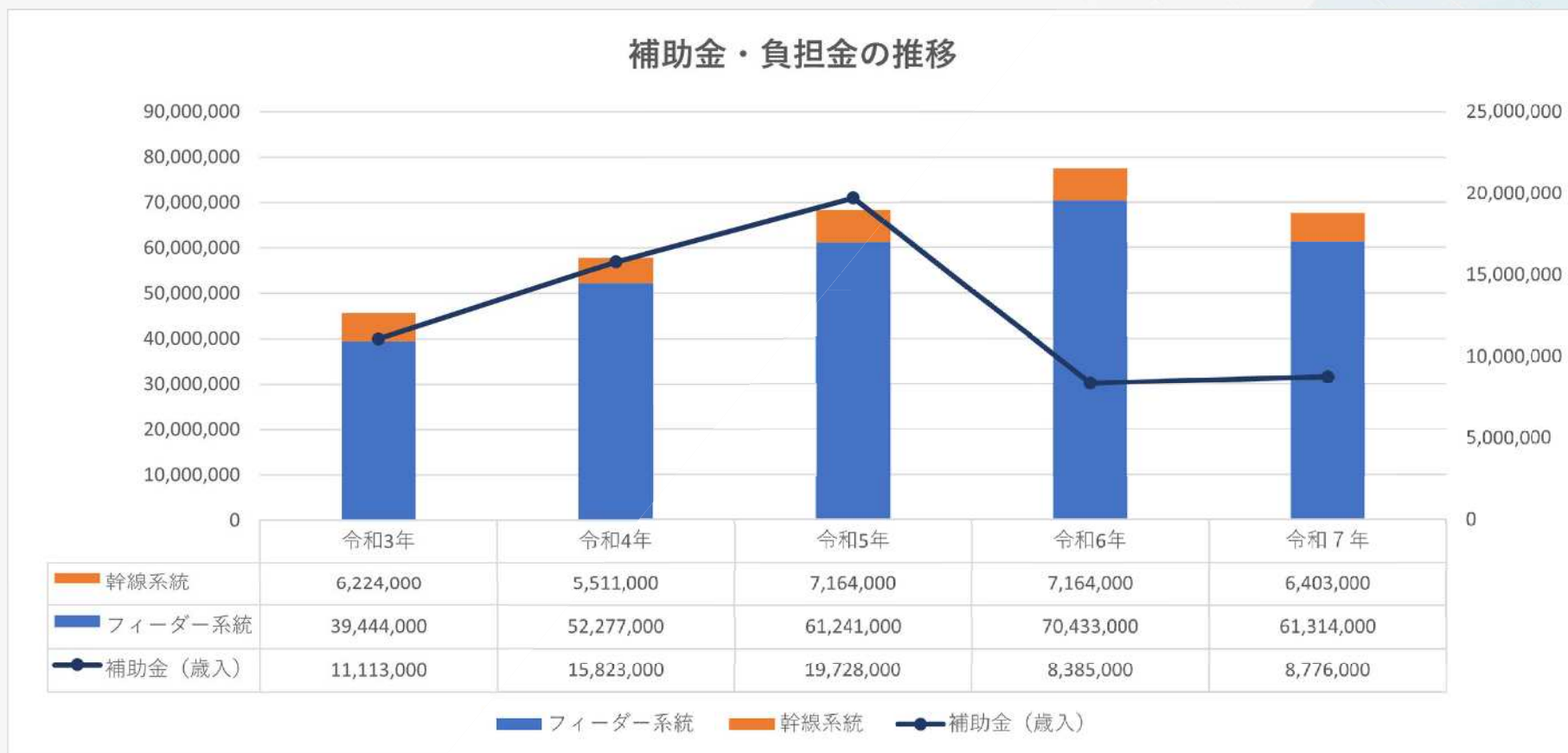


気になる利用人数・運賃収入は…？



利用者数は右肩下がり

県からの補助金も減少…町負担が増加

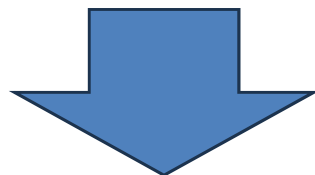


どんどん財政は苦しくなる一方… 07

今ある課題とその解決のために

現状の課題

那賀町では、民間路線バス・町営バスなどの交通が運行されているものの、地域住民の買い物や通院等の生活における移動実態に即しておらず、不便が生じている。一方、交通事業者の担い手不足があり、路線維持が難しくなっている。



その解決のために

公共交通の再編として、運行事業者の協業化により担い手を集約し、より実情に合った地域交通網の構築を目指す。

2

公共交通再編に向けて

実証事業の内容について

新たな公共交通の目指す姿

利用者も担い手も「使いやすく持続可能な」制度

・利用者の要望

- ①輸送頻度の増加（随時使えるような体制）
- ②運行エリアの拡大
- ③利用しやすく分かりやすい制度

・担い手の要望

- ①運行時間の見直し（拘束時間の調整）
- ②後継者の育成の場を設ける
- ③マンパワーの確保

【戦略・考え方】

・住民協力型ライドシェアの再構築

- 住民ドライバーの参画によるマンパワーの確保
ドライバーの数が増加することで輸送頻度が上がる
- 雇用の場の創出（負担感の軽減・モチベ維持）

・事業者との共同化・協業化

- 競合から協業することで運行エリアの拡大が可能
（利便性向上）
- 住民ドライバーだけではカバーできない長距離
移動も並行して行える

・財政支出を抑える

- コストが下がるため現状よりも持続可能性が見込まれる

事業方針 | サービス概要

目的地までスムーズに移動できる、**わかりやすい交通ネットワーク(支線+幹線)**を構築します
また、高齢者をはじめ誰もが使いやすい仕組みを整備し、**安心してお出かけできる環境の実現を目指します**



円滑に乗り継ぐためのご提案

- 支線

 - 目的地(幹線停留所)への**到着時間ベース**での予約
 - 利用者が乗降場所まで長く歩かずに済む**自宅登録**
 - ドライバーは**事前シフト制**
- 幹線

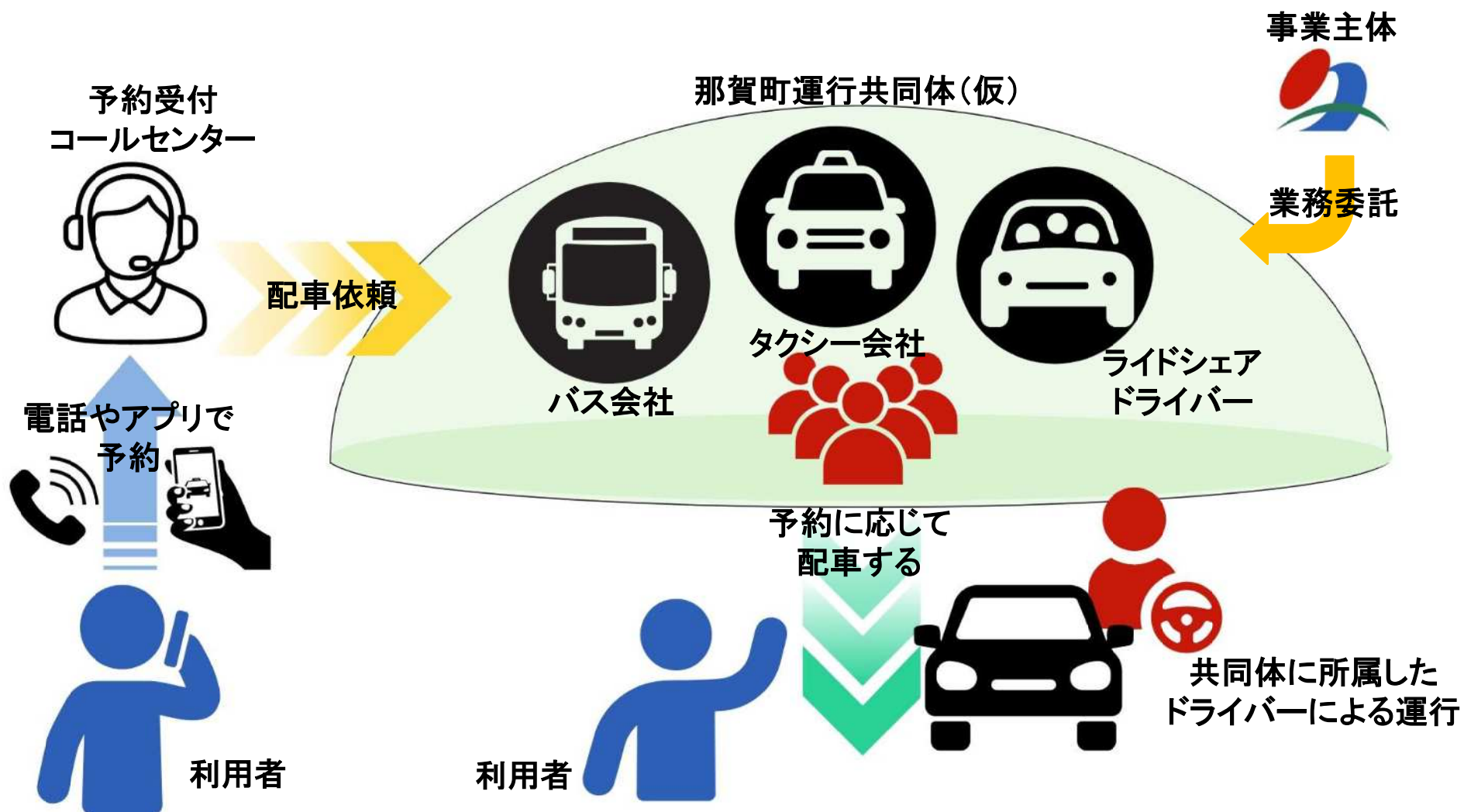
 - 確実に発生する通学・通院の需要に合わせた設計
 - 平日午前上り、午後下り※ → **予約不要(定時定路線)**
 - その他時間帯 → **要予約(デマンド)**

支線(区域運行)	
法的区分	道路運送法78条2号(公共ライドシェア)
エリア	木頭、木沢+上那賀、相生の3地区
乗降場所	各地域のニーズに合致した乗降場所を設置
時間	月~土 7:00~19:00
運賃	1回600円/人
予約方法	ウェブ、電話
車両	新規購入車両4台(定員最大5名)

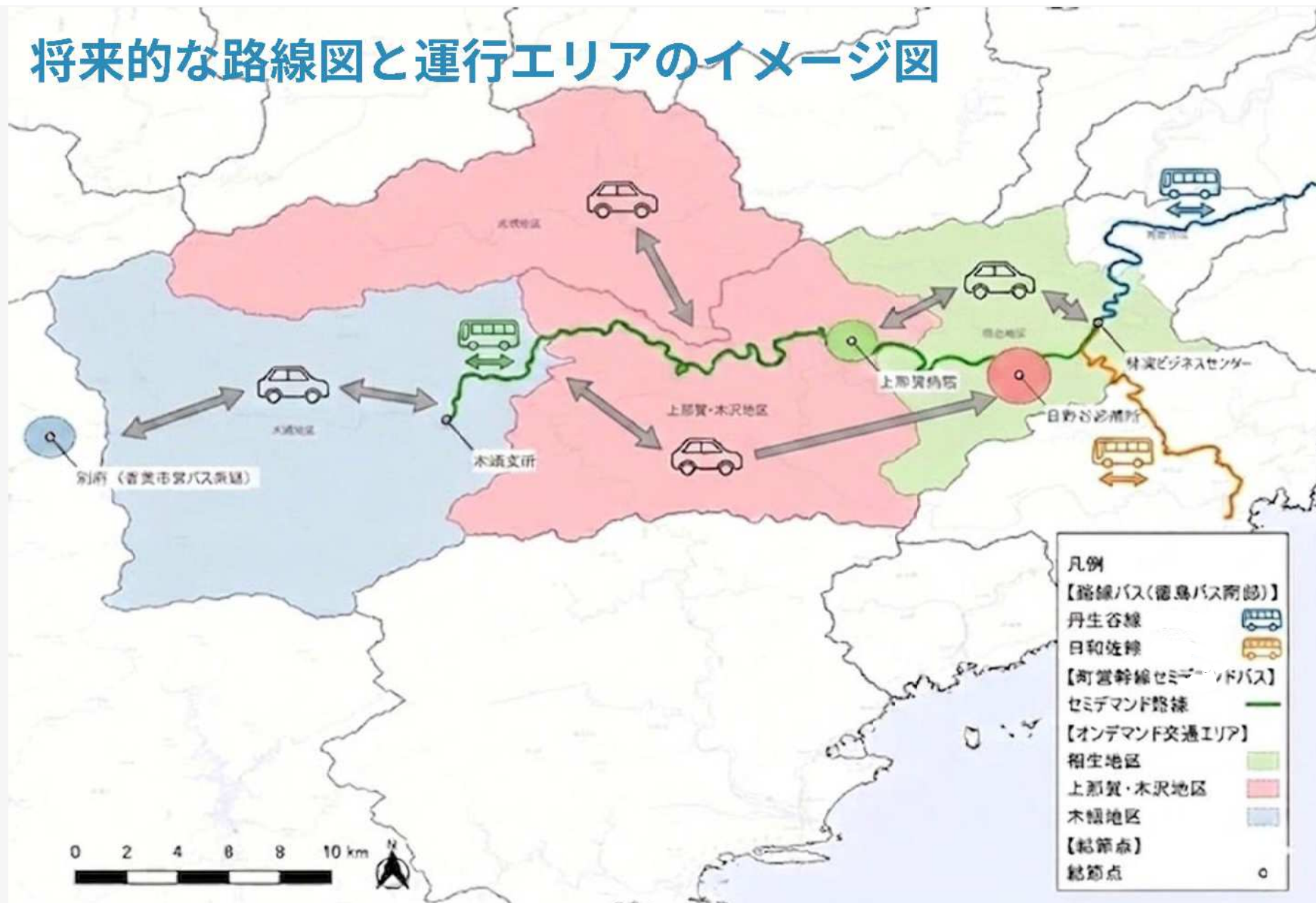
幹線(定時定路デマンド運行)	
法的区分	道路運送法78条2号(公共ライドシェア)
エリア	川口ー林谷口ー和無田間を運行
乗降場所	徳島バス南部路線のバス停を想定
時間	毎日 9:30~16:30
運賃	1回400円/人
予約方法	ウェブ、電話
車両	車両2台(定員26人/25人)

※上り:和無田→川口、下り:逆方向

運行スキームのイメージ



将来的な路線図と運行エリアのイメージ図



今後の事業スケジュール

